

## ◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 自然環境観察会

22A-28

代表者：代表理事 平井一男

URL：<https://nature-garden-walk.jimdo.com/>

### 1. 活動概要

大宮台地北部は都市化と農地の減少により緑豊かな生態系が減少している。自然環境の回復を目的に農地や庭の一隅に生態補償地を設けジャコウアゲハやアオスジアゲハ、テントウムシ、クモ、鳥などのいやしの生き物の保全法の確立を継続した。併せて地域の生物相を把握するために生態園と水田で月例観察会を実施した。以上の広報活動も行った。

### 2. 活動の内容（調査・保全および環境教育の実施時期、参加人数、活動内容など）

- 1) 生態補償地：4月以降上尾桶川久喜宮代熊谷の空き地に生態補償地を設けジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、テントウムシ、天敵生物、鳥類が集まった。・会員延べ40名参加
- 2) 定例観察会：各地の生態補償地（緑のオアシス）および県環境科学国際センター生態園で昆虫、クモ類、鳥類の調査を毎月・毎週行った。・・・同80名
- 3) 水田と休耕田の生物相調査：7～9月桶川の水田と休耕田で生き物調査をした。同20名
- 4) 環境教育：身近な昆虫の標本解説と標本作製体験を県活せと公民館で指導した。

写真左：夏の採集会、中：標本説明会、右：標本作製体験



### 3. 活動の成果

- 1) 上尾市内の生態補償地（緑のオアシス）に寄主植物（ウマノスズクサ、クスノキ、シロダモ）および蜜源植物を植え、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハを定着させた。またタチヤナギ、ユキヤナギ、ダイオウグミ、コデマリなどを植栽しテントウムシ、カマキリ類、クモ類を保全した。さらにプラム、サクラ、ウメなどにメジロ、ジョウビタキ、ツグミ、コゲラ、エナガなども飛来するようになった。
- 2) 2019年、生態園で昆虫151種2898個体、クモ11種376個体を観察、水田での有用生物はクモ、アブ、トンボ、テントウムシ、クサカゲロウ、バッタ、ハチなど22種を記録した。
- 3) 環境教育、身近な昆虫の展示会を県活せ（2回の来訪者430名、桶川加納公民館（5名）、寄居中央公民館（18名）などで年4回行い多くの来訪者があった。
- 4) 調査成果は埼玉昆虫研究会（参加者35名）、関東昆虫研究会（40名）名古屋昆虫集会（30名）などで講演した。
- 5) 生態補償地（緑のオアシス）・蜜源植物に関する広報誌2冊、パンフレットを1冊発行。

### 4. 今後に残された課題

- ・生態補償地の植栽管理、寄主植物、蜜源植物の充実を図り生物多様性を安定させる。
- ・保全対象生物—アゲハ類、有用生物、天敵類の越冬数の安定管理法を明らかにする。
- ・生態園と生態補償地、水田の生物相の調査、データベース化継続、公開を行う。